

宗谷

宗谷教職員組合 「宗谷情報」 No.2 平成28年4月2日発行
発行責任者：高 一伸

〒097-0004 稚内市緑2丁目4-21 宗谷教育会館
Tel 0162-22-2480 FAX 0162-22-2484
web : http://www.soya-teachers.org Mail : info@soya-teachers.org



区別と関連を意識した 民主的學校づくりを進めよう

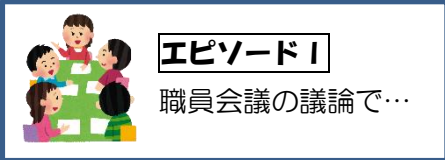
すっかり雪も解けて、春らしい日和を感じられようになりました。各学校では、赴任される方をお迎えしたり、校内人事が確定するなど、新年度の準備が進んでいることと思います。宗谷教組では、新年度になると「春の学校づくりの懇談資料」に取り組みます。今年も、新年度のスタートに、宗谷の教職員が大切にしてきた「区別と関連」、そしてそのうえで成り立つ「民主的學校づくり」についてみんなで学びましょう。

職場の一人として、組合のむらむらむらと…。その所作が「区別と関連」と言われる

よく組織拡大の対話をしていると「宗谷の職場は居心地がいい」とか「組合に入っても、入らなくても変わりはない」という言葉を聞くことがあります。一方で、宗谷教組の組合員の先生方と、組合加入の経過などを語っていると、「学校の中でがんばっている先生方をよく見てい

ると、宗谷教組に加入している先生ばかりだった」という声を聞くこともあります。これって、どういうことでしょうか。同じように見えて、真反対のことを言っているように聞こえます。そこには、組合の難しい言葉でいう「区別と関連」という考え方があります。

まんがでわかる「区別と関連」



そこで…



教職員の責務とは、教職員が一丸となって目の前の子どもたちのために、保護者・地域の願いに寄り添い力を発揮することを指します。このエピソードの場合では、教職員として・学校として考えるべき課題を、組合として「区別」して、独自に『学校の教職員』として考えるべき課題意識と「関連」させて考える取り組みです。組合員みなさんが学習会の感想などで話してくれる「組合があるから、社会情勢や教育課題に気づくことができるんだ」というのも、実は「区別と関連」の考え方に立っています。

エピソードII

分会として、道徳の教科化について学んで…



そこで、研修部から提案。しかし…

学力向上で学校研究をするべきだ



そして、「区別と関連」を踏まえて議論は収束し…

組合で学んだことも生かしながら子どもたちのためにがんばります。

ほかにも、たくさんの「区別と関連」があります。



エピソードI 教育課程づくりで

ある学校では職員会議で「道徳の『教科化』をどうするか」という議題が提案されましたが、疑問や不安が出るばかりでなかなか議論が深まりませんでした。後日、分会でこの職員会議の話題になり、「自分たちが知らないのは問題だ。組合で独自に勉強しよう」という話になりました。

エピソードII 研修部のむらむらむら

分会会議で組合独自に「道徳の『教科化』」について学んだ宗谷教組のみならず。後日、研修日に「学校研究」を決めることになった際に、道徳の教科化を提案しました。この学校は、組合員の先生が多く、組合員の先生以外も多くの先生方が賛成しました。しかし、管理職から「学力向上でいきたい」という意見も。結果的に、「学力向上」という教科研究のテーマの中で、教科と道徳の関係についても研究で触れるよう折衷案に落ち着きました。

昔から「区別と関連」について論じる際には、このエピソードのように「組合（分会）での決定を、学校全体に押し付けられない」ということの大切さが語られています。組合（分会）として議論したことと、教職員集団としての議論の結論が異なることは、よくあることです。昔は、「職場のほぼ全員が組合員」という学校も多くあったものです。そうした時代の教訓としての「区別と関連」ですが、今の時代も大切にならなければならない考え方だということがわかります。【裏面へ】



新連載「私と宗谷教組」

新年度、宗谷情報では新連載がスタートです。宗谷教組はまもなく「アラサー」。設立から28年目へ突入です。年々、「昔の宗谷教組」を語る先生が減ってきて、世代交代が進んでいます。

そうした中で、各支部を牽引するリーダーから、「私と宗谷教組」というテーマで文章を寄せていただき組合づくりを考えます。第1回は、豊富支部・支部長・澤先生が寄稿してくれました。

初任地留萌管内から3年で宗谷管内に異動になり、枝幸中学校に赴任した2日後から私は宗教組の組合員になりました。日本の歴史の中で労働組合が果たす役割は民主主義を守ることに繋がると思っていたので、宗谷に行ったら宗教組に入ると決めていました。町内の各校の挨拶回りの時に初めてお会いした、近藤支部長に勧誘され、その場で「はい、入ります。」と返事をしました。

初めの頃は、組合の活動内容がよく分かりませんでした。気がつくとなんか活動をしてたのが宗教組の先生方でした。教職員の交流活動の企画や運営、住宅や学校の修繕や改善要望、学校運営に関わる教職員間の学習や自覚の促し、儀式的行事の混乱を招かないための現実対応の段取り、等々…。そして、支部総会などで目にする支部書記局の先生方は、当時の私には、神のような存在に思えました。難しい言葉をたくさん知っているし、学校のこと、人事のこと、教育行政、政治、教育や環境の把握から教育要求や生活要求に至るまで、ありとあらゆることに目を配り、一人一人に配慮し、その取り組みを進めている人達でした。学校の仕事でも重要なポジションに就きながら、どうやってこの複雑怪奇な活動をこなしているのだろうと思いました。一教員としての仕事上の尊敬と共に、人として尊敬する人達でした。どんな若い先生にも丁寧な言葉や配慮があり、お願いされたことや激励されたことはたくさんありましたが、上意下達のような気持ちになったことは一度もありませんでした。

数年後、書記長になり、支部代表者会議に参加するようになりました。当時の会議の議題の中心は課題校の状況交流と対策の論議でした。授業づくり、学級づくり、学校づくりなど、とても学びがありました。その後、豊富町に異動し、現在は支部長をさせていただいていますが、政治の変容と共に教育改革の名の下に、学校現場は危機的な状況になっています。そのことに気づかずに生徒の前に立つことはとても恐ろしいことです。「教え子を戦場に送らない闘い」をできるのが組合です。日常の学び、先を見通した学びができるのが組合です。豊中の分会長岩井先生がいつも言っている「組合は教師の学校である。」ということ、宗谷の全先生に知っていただき、視野の広い、一人一人の児童生徒のために役目を果たす教師を目指してほしいと思う今日この頃です。

【豊富支部・支部長／澤 英樹】

おもて面からつぎ

「二つ二つ」を意識した、分会の取り組みを考えよう

「春の学校づくりの懇談資料」では、「学校ってなんだろう」「教育ってどういうこと?」、組合でよく聞く「民主的学校づくり」ってどういうことだろうということ、をまとめています。そして、私たち教職員が大切にしたい「授業づくり」「集団づくり」「学校づくり」のいわゆる「二つ二つ」について「高め合いたい実践力」とし

て掲げています。各分会では、「区別と関連」を大切しながら、どんな分会活動をしていこうか「分会で楽しむことも取り入れながらやってみよう」というように、分会で独自の取り組みを考えたり、懇談資料を学ぶ取り組みを進めましょう。

教員採用試験対策学習会

最近、多くの教職員組合で取り組むようになった「教員採用試験対策の学習会」。宗谷では、もう20年以上の歴史がある、伝統的な取り組みです。今年も、1次対策学習会をスタートします。

昨年度、合格された方の声

臨教部の学習会では、組合の先生方と学ぶことができます。現在、教育現場で経験されている方々ですから、良い学びになります。また、アドバイスもいただくことができます。そんな中での学習会ですので、力が付くに決まっています!!さらに、教科等指導法では、実際の試験より難問でしたので、試験では臆することなく解くことができました。三日坊主のわたしが、最後まで学習会に参加して頑張れたのは、臨教部の皆さんのお陰です。

① 4月12日	⑥ 5月24日
② 4月19日	⑦ 5月31日
③ 4月26日	⑧ 6月 7日
④ 5月10日	⑨ 6月14日
⑤ 5月17日	⑩ 6月21日

いずれの会も19:00~21:00

場所 稚内北星学園大学
参加費 1回1,000円(ただし、組合員は無料)
※1回目・4月12日はオリエンテーションなので参加費無料です。



◆年度末から新年度へ。みなさんの春休みは、どんなふう過ぎていますか?
◆先生方の引越したり、名札を作ったり、教科書を搬入したりと学校・学年・ブロックなどのまとまりで動くことが多い春休みです。「こんな子どもたちを育てたいね」という、教育観の話がたくさんするチャンスでもあります。

◆「観」といえば、4月9日は青年部の学習会「センたま」。今年「観を磨く」と題し、毎月学習会があります。9日のテーマは「学級づくり」。稚内北星学園大学で一四時からです。お待ちしています。
◆春休み、組織拡大の報告がちらほら。初めて宗谷に来た方へ、そして年度初めの節目にこれまで一緒に奮闘した仲間へ、「組合っていいもんだよ」と語りながら管内で広がることを願っています。

「ないてい」